

## 清洲城視察日記 令和6年12月23日

垂井駅7時53分→岐阜駅8時17分着→市内バス8時33分→岐大病院9時2分着→  
検診・診断・会計11時15分→市内バス11時20分→岐阜駅11時50分着 58分発→清洲駅12  
時17分着  
→清洲城まで徒歩25分→お城の写真撮影約20分→徒歩→清洲駅13時28分発→垂井駅着14時17  
分



### 歴史

応永12年(1405年)、尾張・遠江・越前守護の管領斯波義重によって築城された。または永和元年(1375年)ともされる。当初は、尾張守護所である下津城の別郭として建てられたが、文明8年(1476年)に守護代織田家の内紛により下津城が焼失し、文明10年(1478年)に守護所が清洲城に移転することで尾張国の中心地となった。一時期、「織田弾正忠家」の当主織田信秀が清須奉行として居城した以外は常に清洲織田氏(織田大和守家)の居城としてあり、尾張下四郡を支配する守護代織田家の本城として機能した。

織田信秀が古渡城に拠点に移すと守護代織田信友が入城したが、弘治元年(1555年)織田信長と結んだ織田信光によって信友が殺害され、以降信長が那古野城から移って大改修を加えた後、本拠として居城した。信長は、この城から桶狭間の戦いに出陣

するなど、約10年間清須を居城とした。1562年(永禄5年)には信長と徳川家康との間で同盟がこの城で結ばれた(清洲同盟)。永禄6年(1563年)には美濃国斎藤氏との戦に備えて小牧山城に移り、以後は番城となった。

天正10年(1582年)の本能寺の変で信長が斃れると、清洲城にて清洲会議が行われ、城は次男・織田信雄が相続した。天正14年(1586年)に信雄によって2重の堀の普請、大天守・小天守・書院などの造営が行われている。小田原征伐後の豊臣秀吉の国替え命令に信雄が逆らって除封され、豊臣秀次の所領に組み込まれた後、文禄4年(1595年)には福島正則の居城となった。





慶長5年(1600年)の関ヶ原の戦いの折りには、東軍の後方拠点として利用され、戦後は安芸に転封した福島正則に代わり徳川家康の四男・松平忠吉が入るが、忠吉が関ヶ原の戦傷がもとで病死すると慶長12年(1607年)には家康の九男徳川義直が入城し、清洲藩の本拠となった。

慶長14年(1609年)徳川家康によって、清須から名古屋への遷府が指令されると、慶長15年(1610年)より清須城下町は名古屋城下に移転された(清洲越し)。清須城も名古屋城築城の際の資材として利用され、特に、名古屋城御深井丸西北隅櫓は清須城天守の資材を転用して作られたため「清須櫓」とも呼ばれる。慶長18年(1613年)名古屋城の完成と城下町の移転が完了したことにより廃城となった。

## 清洲会議

1582年(天正10年)、「本能寺の変」で織田信長が倒れると、織田家家臣の「柴田勝家」(しばたかついえ)、「丹羽長秀」(にわながひで)、「羽柴秀吉」(はしばひでよし:のちの[豊臣秀吉])、「池田恒興」(いけだつねおき)の4人が集まり、家督相続を決める会議を清洲城で開催。この会議は清洲会議として知られています。

清洲会議の結果、織田信長の嫡孫「織田秀信」(おだひでのぶ)が織田家を継ぎ、織田信長の次男「織田信雄」(おだのぶかつ/おだのぶお)が清洲城に入城することが決まりました。

その後、織田信雄は清洲城を改修。清洲城は、天守を備えた東西1.6km、南北2.8kmにも及ぶ巨大な郭域の中に城下町のあらゆる機能を備えた城塞都市として最大規模となったのです。

のちに、清洲城の城主は織田家から「豊臣秀次」(とよとみひでつぐ)、「福島正則」(ふくしままさのり)へと変わります。1600年(慶長5年)の「関ヶ原の戦い」の際には、東軍の最前線のお城として重要な軍事拠点になりました。

関ヶ原の戦い以降、城主は「松平忠吉」(まつだいらただよし)、「徳川義直」(とくがわよしなお)へと承継。徳川義直の時代の清洲城下は人口60,000人にも達し、朝鮮通信使の記録にも「関東の巨鎮」と記されるほど、天下の名城と称えられました。

## 現在の清洲城

現在、城跡は開発によって大部分は消失し、さらに東海道本線と東海道新幹線に分断されており、現在は本丸土塁の一部が残るのみである。東海道本線以南の城跡(清洲公園)に信長の銅像が、以北の城跡(清洲古城跡公園)に清洲城跡顕彰碑がある。なお、現在城址のすぐ横を流れる五条川の護岸工事の際に発掘された石垣の一部が、公園内に復元されている。

現在の天守は、平成元年(1989年)に旧・清洲町の町制100周年を記念して、清洲城跡に隣接す



る清須市清洲地域文化広場内に建設された鉄筋コンクリート造の模擬天守である。創建当時の絵図が残っていないため、その規模も不明である。そのため、外観や規模は、実在した当時を想像して設計された。建造された天守は、桃山時代の城を再現するデザインで、江戸時代の漆喰塗廻の白い城とは異なる、装飾に富んだ姿となっている。

また、清洲城の天守または小天守の部材を転用または、移築したものとされる名古屋城御深井丸西北隅櫓は現存し重要文化財に指定されている。尾張旭市の良福寺山門は裏門を移築したものとされ、市の文化財に指定されている。また、名古屋市の含笑寺と長久寺の山門も移築された門として伝わっている。清洲城の障壁画は一部が總見寺に移されて現存し、愛知県指定有形文化財（絵画）に指定されている。崇福寺にも清須城の鯨と伝わっているものがある。

残念なことに訪問した日が月曜日だったので 休館でした。お城の最上階からの眺めを見ることができませんでした。